

《巻頭言》

「栢山女学園大学看護学研究」の第16号発刊にあたり

栢山女学園大学看護学研究に投稿いただいた皆様、そしてしっかりと読んでくださっている皆様、心よりお礼申し上げます。

2023年度の後半は、2024年1月1日に令和6年能登半島地震が発生いたしました。亡くなられた方々の御冥福をお祈りし、被災された方々にお見舞いを申し上げます。救護に出られたDMATや救護班の方々からは、「水不足、寒さや感染症との闘い、トイレの不足」などの中で不眠不休に近い活動、疲労困憊しながらの活動が継続されていると聞き及んでおります。

その活動に思いを馳せながら、「研究活動」について再考してみたいと思います。看護職によって展開される看護研究の営みは、臨床現場で気づいた「リサーチクエスト」から始まることがほとんどです。人々の生活の中から生まれた看護の源泉は、つきつめると家事労働や主婦労働にたどり着くと言われますが、看護学部の教育においても、地域の特性、看護の対象の特性などから、“生活を支える視点、看護師と他の職種が協働する視点”を多く取り入れて講義・演習・実習を展開しています。今後も、大学で教育に従事している私たちは、専門職としての看護職が提供するサービス、特に「療養上の世話」とは何か、そこで産出される価値は何か、そしてそれは研究の中ではどのようにして測定されるのか等に多くの関心を寄せたいものです。

今後はますます多様化の時代、QOLの時代が意識されます。病気や障害や高齢の如何に関わらず、そして人生の終末期であっても、その人の多様性やQOLを高めるような看護サービスが求められます。その価値と測定方法について、研究というフィールドで、今後も語り合いたいものです。がんばりましょう！

本誌への投稿は栢山女学園大学に在職している教員のみならず、本学部教員との共同研究であれば、筆頭者が他学部教員や学外者でも投稿ができます。学部生の卒業研究や若手教員の研究活動については、まずは研究が学会発表だけで終わらず、論文化にチャレンジしてほしいと考えます。本誌はそれを手助けする位置づけも担っています。

今後も、多くの看護研究者・看護職の皆様の活発な投稿をお待しております。

2024年3月

看護学部長 杉浦美佐子

目 次

《総説》

精神科看護領域における家族看護研究の動向と課題……………	熊澤 千恵	1
------------------------------	-------	---

《研究報告》

6R 一人双方向型薬剤確認法導入による看護師の理解度の変化の前後比較と今後の課題 ……………	川上 將	19
1 ～ 2 か月児を育てる母親の悩みや問題と感情の関連 ……………	肥田 佳美 他	31

《資料》

心不全患者のアドバンス・ケア・プランニングに関する看護師の認識と実践についての文献検討 ……………	野中 さくら 他	47
--	----------	----

Contents

《Review》

Trends and issues within family nursing research in the field of psychiatric nursing Chie Kumazawa 1

《Report》

Changes in Nurses' Comprehension of The One-Person Medication Confirmation Method: A Pre-Post Study
..... Susumu Kawakami 19

Relationship between Worries, Problems and Feelings among Mothers of Infants Aged 1–2 Months
..... Yoshimi Hida et al. 31

《Information》

Narrative review of nurses' recognition and practices regarding advanced care planning for
patients with heart failure Sakura Nonaka et al. 47